

授業に関する面接について

教科名等	課題および児童（生徒）の実態・構想の条件等
小学校	<p>[テーマ（課題）] 小学校第4学年の算数科において、単元「式と計算」（教科書 P134～144）を全7時間で扱う。学習計画は、以下の通りである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>1 時間目 （ ）を用いた式の計算順序を理解する。（加法と減法） 2 時間目 （ ）を用いた式の計算順序を理解する。（四則混合） 3 時間目 乗法や除法は、（ ）がなくても加法や減法よりも先に計算することを理解する。 4 時間目 四則の混合した式や、（ ）を用いた式の計算順序についてまとめ、理解を深める。 5 時間目 乗法と加法、減法の分配法則を理解する。また、既習の計算方法を○、△などの記号を用いた式に表し、理解を深める。 6 時間目 計算のきまりを用いて、工夫して計算をすることができる。 7 時間目 学習内容の理解を確認し、確実に身に付ける。</p> </div> <p>本時（第4時）は、四則の混合した式や、（ ）を用いた式の計算順序についてまとめ、理解を深める時間である。本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。 （教科書「小学算数4上」 P139 教育出版）</p> <p><学級の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童数 30 人（男子 15 人、女子 15 人） ○ 男女の仲が良く、誰とでも話し合えることができる。 ○ 基本的な四則演算の計算力は、身に付いている。 ○ 本単元 1～3 時間目の学習内容の定着が十分でない児童が 4 人いる。 ○ 算数が得意な 4 人の児童は、短時間で解答を終えてしまうことが多く、時間をもて余している様子が見られる。

<p>中学校 国語</p>	<p>[テーマ（課題）] 第2学年において、「君は『最後の晚餐』を知っているか」、「『最後の晚餐』の新しさ」「魅力を効果的に伝えよう」を教材として、「自分にとっての価値を見極め、伝え合おう」という単元を設定した。本単元は12時間扱いとし、単元を貫く学習課題（言語活動）を「自分の好きな作品について効果的に伝えよう」とした。</p> <p>「君は『最後の晚餐』を知っているか」、「『最後の晚餐』の新しさ」は、「最後の晚餐」という同じ絵画作品についての文章である。本時は、この2つの文章を読み取る中で、構成や表現の効果について比較し、その中で気付いたことや考え、理解が深まったことを確認し合う。</p> <p>次時は、自分が好きな作品について、構成、表現の効果等、どのようにするのが効果的か、読んだ文章から学んだことを根拠に友達と伝え合う予定である。</p> <p>本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。 (教科書「国語2」P170～P185 光村図書)</p> <p><学級の実態> 生徒は、小学生の頃から、説明文の学習を通して、目的に応じて必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする学習を重ねている。そのため、自分の知りたいことを視点に文章を読み取ったり、筆者の主張を意識して論の進め方について考えたりする経験については豊富である。しかし、同じ作品や話題を扱った2つの文章を読み比べる経験はあまりなく、それらの構成や表現の効果について、それぞれどのような違いがあるのか、考えながら読む意識も薄い。</p>
<p>中学校 社会</p>	<p>[テーマ（課題）] 第1学年の地理的分野「B 世界の様々な地域（2）世界の諸地域」において、「ヨーロッパ州」（教科書P66～81）を取り上げ7時間の授業を構想した。第6時の「EUが抱える課題」（教科書P78）の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。 (教科書「中学生の地理 世界の姿と日本の国土 帝国書院」)</p> <p><学級の実態> ○地理的分野の学習や地理的事象への関心はあまり高くなく、地理的事象に関する個別の用語をそのまま覚える受け身な生徒が多い。 ○資料から多くの事実を見つけることはできるものの、それらの事実を根拠に思考・判断したことを説明したり議論したりすることを苦手とする生徒が多い。</p>

<p>中学校 数学</p>	<p>[テーマ (課題)]</p> <p>第1学年の単元「比例と反比例」(20時間扱い)において、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、その変化や対応の仕方に着目して、関数関係の意味を理解できるようにしていく。その際には、小学校の比例や反比例の学習を踏まえた上で、比例、反比例の変域を負の数にまで拡張し、文字を用いた式で表現したり、表、式、グラフを用いて、比例や反比例の特徴を考察したりしていく。</p> <p>これらを踏まえて「反比例と式」(教科書 P144~147) 3時間分の授業を見通した上で、教科書 P144「問1」と P146の「Q」及び「問3」を扱う1時間分の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。</p> <p>(教科書「中学数学1」学校図書)</p> <p><学級の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表、式、グラフを用いるための基本的な知識及び技能は身に付いている。 ○ 比例や反比例については、小学校の時にも学習をしているが、比例は「増えれば増える関係」と正しく認識している生徒が多いが、反比例については「減れば減る関係」というイメージをもっている生徒が一定数いる。 ○ 授業の様々な場面でコンピュータを使った経験があるため、基本的な操作は抵抗なく行うことができる。
<p>中学校 理科</p>	<p>[テーマ (課題)]</p> <p>第3学年「仕事とエネルギー」において、「仕事の原理」を2時間で扱う。この2時間の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。</p> <p>学習計画「4章 仕事とエネルギー」(12時間扱い)</p> <p>前時までに仕事の大きさの学習を行い、次時は、仕事率について学習を行う。</p> <p>(教科書「理科の世界 3」P53~55 大日本図書)</p> <p><学級の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことが、生活や社会とどのようにつながっているか意識できていない生徒が多い。 ○ 実験結果から根拠をもって説明することが苦手な生徒が多い。 ○ 実験方法に習熟していないため、誤差の多い実験となることが予想される。

<p>中学校 音楽</p>	<p>[テーマ（課題）] 第2学年において、「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう」という題材（2時間扱い）を設定した。俳句に音をつけて、言葉の抑揚に合う4分の4拍子の旋律を作成する。生徒が俳句の特徴を生かし、表したいイメージと関わらせて創作ができるよう、適切な条件を設定して題材を構想することが大切である。本題材では特に、音楽を形づくっている要素のリズムと旋律に着目し、まとまりのある創作表現を創意工夫することができるようにしたい。本時（第1時）の授業構想を、板書を活用して説明しなさい。 (教科書「中学生の音楽 2・3上」P36～37 教育芸術社)</p> <p><学級の実態> ○ 共通教材「夏の思い出」を扱った題材では、詩の内容や曲想を感じ取って思考し、曲の背景との関わりを捉え、歌唱表現を創意工夫することができた。 ○ 感じ取った曲想について自分なりの評価ができるようになってきたが、他者と論じ合うことや批評し合う活動において、消極的な生徒が複数名見られる。</p>
<p>中学校 美術</p>	<p>[テーマ（課題）] 第2学年2学期において、粘土を使う表現として「瞬間の美しさを形に～パリオリンピック・パラリンピックの感動を残そう～」という題材を設定した。躍動感、緊張感から生まれる美しさをもった一瞬の人の動きを立体彫刻で表現する題材である。本題材は8時間扱いとする。 第1時では、パリオリンピック・パラリンピックのダイジェスト静止画や参考作品の鑑賞を通して、関節や重心の位置に着目し、「のぼす」「ためる」などの動きにより、躍動感や緊張感が生まれていることを学んだ。また、自分が表したいものについて想像した。 第2時（本時）は、どの競技のどのような瞬間の動きを表すのか考え、制作の主題を生み出すためにアイデアスケッチをする活動を設定した。次の時間には、関節や重心を意識した立体の芯棒をつくる予定である。 本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。 (教科書「美術2・3上 学びの実感と広がり」P10～11 日本文教出版)</p> <p><学級の実態> ○ 30人学級（男子13人、女子17人） ○ 美術の授業に、大変意欲的に取り組む生徒が8～9割程度いる。 ○ 学年の始めに調査したアンケートの分析結果で、男子は立体造形に興味をもち、得意としている生徒が多いが、女子は平面の絵画作品に興味をもち、立体造形については苦手意識のある生徒が多いことが分かっている。</p>

<p>中学校 保体</p>	<p>[テーマ（課題）] 第3学年において、「E 球技 イ ネット型 バレーボール」を10時間扱いで行う。単元を通して、作戦に応じた技能で連携しながら、ゲームを展開することをねらいとし、勝敗を競う楽しさや喜びを味わいながら、ポジションの役割を意識し、仲間と連携して攻撃を組み立てることを練習している。</p> <p>前時（第3時）では、練習してきたチームで初めてのゲームを行い、チームとしての実態をつかんだ。なお、第6時以降は、ゲームを行うことを想定している。</p> <p>今後の単元の構想を意識しながら、この本時（第4時）の授業構想を、板書を活用して説明しなさい。</p> <p><学級の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生 男女共習 男・女32名 ○ 球技のバレーボールは、2年時にも実施している。 ○ 単元導入時に行ったアンケートでは、バレーボールが「好き」と回答している生徒が12名、「嫌い」もしくは「苦手」と回答している生徒が8名。「どちらでもない」は12名いる。 ○ 見学者はおらず、全員参加できている。
<p>中学校 技術</p>	<p>[テーマ（課題）] 第1学年において、「B 生物育成の技術」を題材として設定する。初めに生物育成の技術（トマトの栽培）について学び、その後生物育成の技術による問題解決学習（P114～133）を行った。</p> <p>本時は、この題材の最後の授業であり、「これからの生物育成の技術」を教材として、まとめの学習（1時間）を行う。</p> <p>この本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。ワークシートを使用すると想定する場合、ワークシートを黒板に書いてもよい。 （教科書「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」P134～139 開隆堂）</p> <p><学級の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男子15人、女子15人、計30人の落ち着いた学級。 ○ 技術分野を初めて学び、課題の解決策を構想する力には個人差がある。一部の生徒のみが技術と社会とのつながりについて意識できている。 ○ 技術の見方・考え方に気付いて、技術を評価しようとしている生徒は少ない。

中学校
家庭

[テーマ (課題)]

第3学年「A 家族・家庭生活」の「(2) 幼児の生活と家族」の学習を6時間で扱う。この題材では、「幼児のころと今の自分」「幼児の体の発達」「幼児の心の発達」「発達にとってのおとなの役割」「遊びが必要なわけ」の順で学習を終えており、本時は、題材の第6時となり、「遊びを支える環境」について1時間扱いで学習をする。A領域においては、「自分の成長と家族・家庭生活」を学習済みである。

本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。

(教科書「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」P38～41 開隆堂)

<学級の実態>

○年間指導計画では、A 家族と家庭生活(1)については、第1学年の最初に設定し、履修している。本題材である「幼児の生活と家族」は、第3学年1学期後半(7月)から始まり、2学期前半(9月)にかけての学習となる。

この後は、近隣のこども園に出掛け、幼児と交流を行う予定である。

○生徒は、小学校家庭科からの5年間で初めて、幼児にかかわる学習をする。幼児にかかわる経験は、身近に幼児がいる生徒もいれば、ほぼかかわったことがない生徒もあり、家庭環境によってさまざまである。また、「幼児をかわい」と感じる生徒もいれば、非常に苦手意識が強い生徒もいる。幼児の学習は、衣食住や消費生活の領域よりも、日々の生活体験とかけ離れており、イメージが湧きづらい。加えて、「将来親になったときに必要な知識」と考える生徒が多く、現在の自分の生活と結びつかず、自分事として捉えづらい傾向がある。

中学校
英語

[テーマ (課題)]

第2学年において、「Unit4 Tour in New York City」の単元(教科書 P51～59)を10時間で扱う。単元の終末には、「来日したばかりのALTに浜松のことを知ってもらえるように、浜松のミニ観光プランを考えよう」(教科書 P58～59)という言語活動「話すこと(発表)」を設定している。

第8時(前時)までにPart1～Part3を扱い、There is ～. を使って行きたい施設や場所とそこにあるものを伝え合ったり、S+V+O+O を使って誰に何をかうかを発表し合ったり、不定詞の形容詞的用法を使って行きたい場所とその理由を説明したりする活動を行ってきた。

第9時(本時)では、これらの既習の表現を用いて単元終末の言語活動に向けて、スピーチの練習と修正を行う。本時の授業を構想し、板書を活用して説明しなさい。

(教科書「Here We Go! ENGLISH COURSE 2」光村図書)

<学級の実態>

- 男子16名、女子16名、計32名の学級。
- 英語を「聞くこと」「話すこと」については抵抗が少なく、積極的に言語活動に取り組む生徒が多い。一方で、自分の思いを表現することに自信がもてず、人と関わるのが苦手だと感じている生徒も数名いる。
- 「英語の学習が好き」と感じている生徒は多いが、文法事項を正しく用いて表現することに課題が見られる生徒も半数近くいる。
- 語彙や文法事項の定着に個人差があり、自分の考えや思いを伝えたい気持ちはあるが、相手に伝わらないという場面が時々見られる。

保健に関する面接について

養護教諭	<p>[テーマ（課題）]</p> <p>テーマ1（保健教育）</p> <p>中学校2生の保健の学習「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」で、担当教師とチーム・ティーチングを行います。担当教師からは、今回は「薬物乱用と健康」について一緒に指導してほしいと依頼があり、あなたは、T2として、その授業に参画することになりました。配当時間は1時間です。</p> <p>配付資料を参考にしながら養護教諭としてどのように参画するか、構想しなさい。</p> <p>テーマ2（実演・健康相談・保健指導）</p> <p>あなたは、小学校に勤めています。3時間目終了後の休み時間に、6年生の女子が一人で保健室に来ました。「包帯が外れてしまったので、巻いてほしい」と言って、左手首をあなたに見せました。確認をすると、3センチほどの浅く細長い切創が、数本見られました。傷口はふさがっており、出血は見られません。面接官をこの児童に見立てて、児童に声を掛けながら包帯を巻く等、対応してください。ただし、児童は声掛けに答えない場合もあります。</p>
------	--